

留 学 報 告 書

平成 28年 5月 30日

学 部 法文学部 学科・課程 言語文化学科

氏 名 石川絵美子

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ合衆国

大学名 フロリダ大学 (University of Florida)

現地到着日 (2015 年 8月 18日) 授業開始日 (2015年 8月 24日)

現地出発日 (2016年 5月 15日) 授業終了日 (2015 年 4月 29日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

主な手続きや準備としてはTOEFLの受験、VISAの習得、アメリカの大学から送られてくるApplicationの記入・送付、英語の勉強（ノートの取り方、ポスターセッションの練習等、滞在先の確保（寮/アパート決め）、航空券の調達等が挙げられます。TOEFLやVISAの習得に関しては基本島根県内には会場がないため近場で行くと広島か岡山のテストセンターや大阪大使館等の県外に出なければならずバスの予約やホテルの予約、必要に応じて公欠届の提出も必要でした。Application作成は準備も留学の一環として考えると、留学をする上で一番大変だったことの一つです。当たり前のことですが全ての指示が英語であることに加え、本当に様々な種類の書類を事細かに提出しなければならず、とにかく時間とお金と労力が必要であったと記憶しています。何種類も予防接種を受けに行かなければならなかったり、健康状態、経済力証明を和文から英語に訳してから提出したり、またアメリカの大学で実際にどの授業を取りたいか等の調査や審査もありました。期日までに確実に仕上げて提出すれば基本問題ないと思いますが、骨の折れる作業なので「準備の大変さは留学する人誰もが乗り越える道だ」と心して望むといいと思います。

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

夜行バスで東京→成田空港→アエロメヒコ航空でメキシコシティ→メキシコシティ国際空港内のホテル

ルで一泊→オーランド国際空港へ→知り合いに迎えに来てもらい車で2h大学がある街ゲインズビルへ。

余談ですが、その当時日本からアメリカまでの航空券が非常に高く(少なくとも片道20~30万)、安い航空券でオーランドまで行くことができたのがメキシコシティ経由の飛行機(9万円台)でした。あとから話を聞くとメキシコシティは誘拐も頻繁におきる世界三大危険地帯だったので唯一値段が安かったのだと納得しました。そのためメキシコシティでは決して空港外に出ることはせず、安全を第一にターミナル内にあるホテルに宿泊をし、翌朝の乗継便でフロリダに向かいました。空港内、ホテルはその治安の悪さを感じることはなかったのですが航空券を取る際は場所の選択も気を付けるといいと思います。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

インターナショナルセンターから指示やオリエンテーションがあると思いますが、基本的な各種手続きはインターネットを介して行う方式でした。履修登録やアメリカでの新しい住所登録も留学先の大学で発行されたIDとパスワードを使い自分で行っていくと思います。留学前の準備等で大体サイトの見方や登録方法は分かるようになりました。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オリエンテーションでは大学近くのスーパーの紹介、ヘルスセンターの場所、その他留学に伴うカルチャーショックやうつ病予防について等の説明があったかと思います。私の場合、語学学校ではなくすぐにフロリダ大学正規の授業を受講したためプレースメントテスト等はなかったです。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

フロリダ大学の基本的な授業は一コマ50分で、授業にもよりますが週3回~4回のもものがほとんどだと思います。同じ授業内容でも様々なスケジュールがあるので自由にスケジュールを組むことが可能です。一日に受ける授業数(連続コマ)を増やせば朝から晩まで授業がありますが学校に行かない日を作ることができたり、逆に私のように毎日数コマを少しずつ取り早めに帰宅したりすることができます。全休を作ればその分丸一日分自学日設けることができますし、毎日学校に行くパターンであれば毎日規則正しく過ごせるかと

思います。

授業の受け方は基本島根大学と変わらないと思いますが、生徒や先生がより近い関係性で生徒の質問や意見一つで授業の風向きがガラッと変わったり、意見を頻繁に求められたり、グループワークの時間等もかなりあるので、ノートをしっかりとりつつ積極的に議論に参加することの両方が求められます。授業で使うパワーポイントをアップロードしてくれる先生もいれば、生徒が自分自身でノートをとることを推進するためアップロードを一切しない先生もいます。そのため授業中はかなりの集中力を必要とします。どうしてもノートが追いつかないとき、理解できなかったときはオフィスアワーを訪れるか、席が近い友達に見せてもらうこともありました。

試験の傾向についてですが、先生がテスト前にスタディガイドを配布してくれることもあります。基本的には教科書、ノート、レジュメ、パワーポイントを復習し要点を頭に入れておけば問題ないかと思います。私の場合はテスト前に自分でスタディノートを作ったり、アメリカ人の友達と一緒に勉強したりすることで対応していました。また、ブックストアに行けば、Smokin' noteという名前の授業の要点や試験の模擬問題が入ったスタディパック等(有料)もあります。生徒間ではかなり人気があり、私も一度購入しましたがなかなかクオリティの高いものでした。必要に応じて購入を検討してみてください。

試験当日についてですが、前もって留学生であることを説明するとUFの方針に従って試験時間の拡大や、電子辞書の使用が許可していただけることもあります。しかし例外も多々あり、言語学等のテストやオンラインで受けるテストについて個別対応は不可能でしたのでほかの生徒と変わりなく同じ条件のもと受験しました。いろいろな場合があるのでその都度先生に相談するといいいと思います。

フロリダ大学の授業の特徴として小テストの多さがあげられます。常に予習復習プラスで小テストの勉強をしなければならず大変なこともありました。小テスト一つ一つをしっかり勉強して受ければその分定期試験で役立ちましたし、成績に大きく影響することが多かったので心して臨みました。

ペーパーは1, 2枚の簡単なものから15ページ等のなかなか量の多いものまで多岐にわたります。基本的に大きいレポートになると細かな内容(段落ごとのクエスチョン)や使うべき参考資料の例、書式(MLA方式が主)やフォント、文字数が掲載されたガイドラインが配布されるのでその指示に従って書き上げます。極力自分でグラマー等のミスを直した後、私の場合は時間があれば添削が得意な子にチェックしてもらっていました。大きな学術的レポートになるほど、表現の言い換えや内容のより詳しい説明が求められるためネイティブの意見を聞くと良いと思います。授業中にpeer reviewingといってクラスメート同士でお互いのレポートを添削評価しあい、直した後提出をするような授業もありました。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

私が秋学期に受講した授業は、パブリックスピーキング (SPC2608)、コミュニケーション学 (SPC2300)、言語学 (LIN2000)、社会学 (SYG2430) で春学期に受講したのは英語指導法 (TSL3360)、発音学 (LIN3201)、言語学 (LIN3010)、ヒューマンセクシュアリティ (ANT2301) の計8つです。私は島根大学で言語文化学科英米ヨーロッパ言語文化分野に所属しているので言語学を毎学期必ず入れていましたが、専門以外の科目もアメリカでしか勉強できない内用のものや、日本とアメリカの教えかたの違いや内容の違いをみるため専門以外の科目も積極的に取り入れました。基本どれもおすすめですが、特に人前で英語スピーチする度胸やスピーチのコツ等を学べるSPC2608と人間と言語習得の関係性について学ぶことが出来るLIN2000はとって良かったと強く言える科目です。教職を取っている方にはネイティブの学生と一緒に英語で模擬授業や指導案作成の実践演習をするTSL3360もお勧めです。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

私の場合は留学生がくらす国際的な寮に残念ながら落ちてしまったので自分で探す必要がありました。大学からバスで20分ほど離れたアパートに三人のフロアメイトと共に住んでいました。(洗濯機、キッチン、リビングルームを共有) 家賃は寮よりも安く、個人の部屋とバスタブ付きの個人バスルームもあり非常に落ち着ける空間でした。しかしながらフロリダのアパート事情として一年契約が基本なので余った月日はサブリース出来る人を自力で見つけ出来るだけ余分なアパート代を減らすか、数か月分全額家賃を払い続けるかしなければなりません。私は最後の最後で後任者を見つけることが出来たのですが、見つけられるまでの間は多額のお金が絡む問題ですし非常にストレスを感じました。アパート契約するならば、新規一年契約ではなく、自分が住みたい月日だけをオファーしている誰かからサブリースを引き受けるとよかったかなと思います。それらはフェイスブックページで見つけることができます。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子 (行事など)、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、(いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等)

前述したようにアパートの場合は契約期間に気をつける事、そしてルームメイトを選ぶ際は友達や知り合

いと一緒になるようにアパートのオフィスに重々伝えることだと思います。私のルームメイトはランダムに選ばれた人だったのですが、一人は若くして妊娠していたことで一時期非常に感情的で手が付けられない状態でした。ホルモンバランスが落ち着いてからは問題なく普通のルームメイトに戻りましたが…。また、他のルームメイトの猫を媒体にアパート中にノミが発生した事もとても苦い思い出です。アパートで何か問題があった場合は迅速にオフィスに連絡することをお勧めします。出来る範囲内で対応してもらえるとと思います。寮と違い閉鎖期間がないのはとても良い点でした。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

(どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等)

レストランや買い物など日常的な支払いは日本でも使っていたクレジットカード (VISA) で、アパートの家賃の引き落としや少額の現金調達はアメリカで作った銀行の口座 (Bank of America) から行っていました。留学開始時に少額の現金は持って行っていたのですが、すぐに足りなくなりました。日本からの送金は時間と手数料がかかるためアパートの敷金礼金等をよく確認し日本から多めの現金を持っていけばよかったです。 (始めを乗り越えられればあとは特に問題ないと思います)

11. キャンパス案内 (どんなとき、どこへ行けばよいか等)

留学関連で困ったときはHUB内にあるインターナショナルセンターへ、病気やけが等をした時・薬を買いたいときは学内のStudent Health Care Centerへ。図書館も24時間空いているのでテスト勉強等におすすめです。教科書や物品を買いたいときは学内のBOOK STOREに行けば大体そろいます。無料印刷はReitz Unionで出来ますが図書館のプリンターは有料です。

12. 現地案内 (買物, 銀行, レストラン, 理髪店, 美容院等の様子)

買い物についてはアパートから近いスーパーを探したら良いかと思います。私はPublix, Winn Dixie, Trader Joesによく行っていました。学校帰り等にバスで行くことも可能ですが車持ちの友達と一緒にいくと非常に楽です。日本食が恋しくなったらSushi ChaoかBento Box Caféがおすすめです。全く一緒というわけではないですが辛うじて日本食シックを凌げるかと思います。美容院は一度だけOaks Mall内の美容サロンでチャレンジしました。西洋人とアジア人の髪質は全く違うので入店時か予約時に日本人の髪を切れる人がいるかどうか確認することが大切です。私は満足のいく仕上がりにりましたが、アメリカの散髪を体

験してさんざんになった留学生を何人も知っているのです基本散髪は賭けだと思ひます。

13. 失敗談 (どんな小さなことでも)

先ほど述べたようなアパートの諸問題や、文化的なカルチャーショック (リサイクル、街でのナンパ? や声掛け) にはストレスを抱えることがありました。またアメリカでは日本だったらクビではないか、と思うような無礼な接客も体験しました。全体的な事としては日本人にありがちな「他人に合わせる、自分は二の次」という価値観を捨て、正しいと思う時は自分の意見を貫くこと、トラブルには留学生と言え毅然とした態度で対応することが大切だと思ひます。

14. 病気になった場合の対応について (医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか)

UF内のHealth Care Centerに行けば無料で診察をしてもらえます。(薬は有料です。) 保険は渡米前にUF指定のものに入りました。日本から自分に合った薬や体温計を持っていくと安心です。

15. お世話になった方々

留学期中に所属していた団体CCH, Navigater, 国際課の方、友人、クラスメート、教授、ホストファミリー、ルームメイト etc (*Navigaterは現地のネイティブ学生と留学生がペアを作るチューター制度のようなもの。旅行ツアーやボランティアの斡旋等もしているのです登録しておく活動の幅が広がります。)

16. 留学先国内旅行について (場所, 手段, 費用, 旅行社等)

留学期中にはバージニア、サウスキャロライナ、ワシントンDC、ニューヨークに旅行に行きました。上記二つは友達やホストファミリーと行ったので車でしたが、後半二つは飛行機を利用して一人で行きました。プラン等もネットや行ったことのある友人のアドバイスを参考に自由に決めました。学校のスケジュールを念頭に早めに計画を立てればその分安く行けると思ひます。宿泊先はホテルやairbnbのゲストハウスを利用して節約しました。フロリダ州内ではセントオーガスティン、ユニバーサルスタジオ、ディズニー、いくつかのネイチャーパーク、牧場に行きました。自然が豊かなところなのでカヌーやカヤックも楽しめます。

17. 気候と服装について

今年は異常気象だったようですが秋口にコートが必要なほど寒くなり、急遽現地で購入したり日本から送

ってもらったりもしました。しかし2月頃でも半袖で十分な程暑かったりもしましたので何とも言えません。

基本は半袖に冷房対策のパーカーがあれば過ごしやすいかと思います。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

文房具、体温計、電子辞書、USB、常備薬、コンタクトレンズ、生理用品、サングラス、水着、調味料（味の素など）夏服と秋服、旅行用ガイドブック、お世話になった人に渡す用に日本のお土産、レトルト食品 etc.

基本は現地で揃えることができますが、物価が高いことや使い慣れたもの、自分の肌に合ったものが良いときもあるのでスーツケースに入れられるだけ入れて行き、足りないものは買い足すとよいかと思います。

私は日本から食料や衣服、書籍を必要に応じて何度か送ってもらいました。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

特にないですが、旅行用ガイドブック（地球の歩き方など）を持っていけばよかったかなと思いました。英語勉強用の本や取りたい授業の日本語専門書もあると便利です。

20. ホームステイの依頼方法

一年生の時にフロリダ短期研修でお世話になったホストファミリーに留学が決まる前から連絡を取り再び会いに行ったり、私の実家で受け入れたアメリカの友人の家に今度は私が泊りに行ったりなどしました。宿泊の際に感謝気持ちを十二分に伝えること、何か日本のプレゼントを持っていったり日本食を振る舞ったりするとお互い良い関係が保てると思います。

21. 留学費用について

- | | | |
|----------------|------------|----------|
| 1) 旅費 | (往) 10万 円, | (復) 9万 円 |
| 2) 準備費用 | | 7万 円 |
| 3) 大学へ納入する費用 | | 円 |
| 授業料（年間合計）島大へ | | 50万 円 |
| 保険等その他の費用 | | 6.5万 円 |
| 4) 住居費（光熱費等含む） | | 45万 円 |

- 5) 衣服代, その他雑費 (生活費) _____ 90万 円
- 6) 帰国時の土産代, 郵送料等 _____ 5万 円
- 7) 留学先国内旅行費用 _____ 28万 円
- 8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額 _____ 250万 円
- 現地通貨 1ドル=125円 _____ 日本円換算 250万 円

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

_____ もともと大きなスーツケースを二つ持って行っていたので、帰りも追加料金をとられないよう気をつけつつ制限ぎりぎりまで荷物をつめ、帰国しました。やはり帰りは荷物が増えていたことから、バストンバックも機内持ち込み荷物としてもちこみました。それでもかさばるもの、重さを取るもの(教科書、ノートなど)は段ボールにまとめて日本に送りました。基本はスーツケースに入れて持って帰る方が郵送よりも安いので荷造りの際は工夫してみてください。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

_____ 大学在学中、出来ることはなんでもしたい、自分を試したい、将来への視野を広げたいという思いから3週間の短期の留学の後、この9ヶ月間の交換留学に挑戦しました。大学に入る前から長期留学について考えていたものの、実際に決断し帰国した自分自身に正直一番驚いています。しかし実際に留学してみて言えることはこの留学は私の人生において必要不可欠な要素であったということです。留学に向けての準備、試験、書類作成から実際に留学して帰国するまで実にたくさんのことを経験しました。フロリダ1期生ということもあり勝手に分からず日本とアメリカのシステムの違いに挟まれ大変な思いをしたこと、ネイティブの中で受ける正規の授業に必死に食らいついていったこと、アメリカでも有名なフロリダ大学で勉学に励めたこと、アメリカでできた生涯付き合い続けたい様々な国籍を持つ大切な友人たち、日本では体験することの無かったホームレス支援等の新たな領域への挑戦、留学で培った積極性、コミュニケーション能力、度胸、忍耐力、行動力…。語学力が向上することはもちろん、留学を通して私はこれから国内国外問わずどこでも生きていけそうだ、世界に飛び出すことって大変だけど楽しい!という自信ができました。そして、この留学をさせていただいたという事実、日本やアメリカで周りの助けや応援、助言があってこそ乗り越えられた留学だということに感謝しつつも、帰国=留学は終わり、というわけではない、ということのをいま改めて強く感じています。この留学は私にとって無くてはならないものでしたが、あくまで成長するためのステップ

の一つということです。まだまだ課題はありますし、留学を通して見つかった新たな課題や目標もあります。
それらを今後この留学経験を活かしつつ積極的に取組み、また気持ちを新たにグローバル社会に生きる一員
として、島根、日本、そして世界に貢献できる人材になりたいと思います。_____